

## 島根創生

# 人口減少に打ち勝ち、笑顔で暮らせる島根をつくる



〈プロフィール〉 野津 建二 (のつ けんじ)

島根県教育委員会教育長

1984年4月 島根県庁入庁

2011年4月 島根県教育庁社会教育課長

2012年4月 島根県教育庁保健体育課長

2014年4月 島根県政策企画局政策企画監

2015年4月 島根県総務部財政課長

2015年12月 島根県総務部次長

2018年4月 島根県政策企画局長

2021年7月から現職

(前号からの続きです)  
**長寿の秘訣**

編集部..2つお聞きしたいのですが、1つは、コミュニケーションを取れるということがとても重要だとおっしゃられて、2017年12月7日の『週刊新潮』(128・133頁)で、「島根県」の秘密はまだあった! 5年連続「100歳以上が」日本一多いと出ておりまして、現在もそれが継続されているのではないかと思います。今、教育長のお話を伺って思いついたのが、アメリカの研究で、長寿に何が影響を及ぼすかということについて、アメリカの長期的な研究の結果、学歴でも収入でも食事でもなくコミュニケーションだと。

つまり、孤独が最も死を招く、ということです。だからコミュニケーションを取れている島根は長寿県なんだというところが海外の研究とも符合したという気がしました。それで、コミュニケーションを活性化する場として社会教育というものを想定されているのかなと思つたので、その点をもう少し伺いたいと思います。

2点目は、少し以前の中教審生涯学習分科会で、その時にいわゆる図書館に「TSUTAYA」さんが入る、美

しい、コーヒーショップが入ったり、そういうものが佐賀県の武雄図書館をはじめとして出てきて、それが審議会の場でも紹介されたのですが。当時の分科会の臨時委員の鴨木さんは、その流れに同調しませんでした。

島根県が目指す社会教育施設というのはそういった事業者が入ったサービスタ型の施設を整えていくことではなくて、市民中心の手づくり型なのかなと思つたところがあります。そこについての野津さんのお考えをお聞きしたいと思つています。

野津..長寿の話は、ほんとに粗食だからなんですよ、なんて(笑)。やっぱり前頭葉を使うということが人間は一番落ち着く。で、前頭葉から感情の抑制ホルモンが出ますから、子どものうちから前頭葉を鍛えることで落ち着いて勉強ができる。

もう1つ、子どもの脳の成長って10歳ぐらいまでで大体決まるので、そこまでしっかりコミュニケーションを取らせる。一番前頭葉を使うのは言葉だろうと。言葉でしか考えられないから。例えばゲームなんかは前頭葉を使わない。全く使っていない。

余計な話ですけども、僕は保健体

育課長もしていたんです(笑)。

陸上競技でトラックを走るのって、う左側にまわるように走りますよね。俗的に言うとか心臓が左にあって重心がこっちに傾くからって。もう1つは右利きが多いので、蹴り足、外足で蹴って方向を変えるんです。で、外足って右足ね。幼稚園・保育所なんて放っておくとみんなこう走るんだけど、ある日、逆に走らせてみるんですね。そうすると子どもって、ちゃんと走れる子ももちろんいるけれども、最初のカーブのところでは転ぶんです。何でかという、1つは足首が弱い。左回りしかバランスを取ったことがないのでやっけないことができないんです。で、一番面白いのは、最初のカーブからトラックをはずれて左側に行くんです。

右回りだったら曲がり切れないから元に戻して曲がりやすいほうに。おい、どこへ行くんだって。こういうのがあります。「運動してまず、運動してまず」って言うけれども脳を使っていないのです。

編集部・惰性になって。

野津・慣れちゃって。脳を使って運動しようと思ったら普段と違うこと、反対のことをやる。右、左。利き手利き

足があるので、反対のことをやるとなかなかできない。

ちなみに左回りでも回れない子がいますよ。足首が弱いっていうのは、小さい頃に正座とうんこ座りを繰り返さないで足首は強くないです。今は正座しないでしょ。トイレが洋式ですよ。足首が弱いのでやったことしかできなくなります。

だんだん成長して速く走れるようになってでも足首がついていけないから転んだりします。こういうトレーニングをしたら、そのうちできるようになりますから。そうすると左右バランスが取れる。こちら辺で頭を使うんです。

そういう具合に、これ以上発達はないんだけれども維持していくためには言葉を使うということが一番前頭葉を使うので、それが肉体的なものとは別にして脳みその老化の進行を遅らせることになるんだらうと思います。

で、肉体が元気なら長生きできる。やっぱり肉体は粗食じゃないと駄目。和食じゃないと駄目。うちの県は漬物を食べるから塩分が高いんです。だしは薄味なのに塩分は高い。関西風のだしなので、東京のうどんが食べられないんですけど(笑)。

お年寄りには1人暮らしの方もたくさんおられます。

やっぱり人と話すことを続けるし、肉体的には農作業をやったり、軽スポーツをしたりします。

で、そういう意味で適度な運動とコミュニケーション、これの両方がないと長生きできないと思います。孤独が嫌で人と話したいから移動して話す。それが車の運転もしますし、歩いたりもするわけです。生活の糧のために農作業もする。田舎のほうでね。そういったこともあって、長生きとコミュニケーションというのは、僕は関係あると思います。

もう1つは図書館の話。僕らは「あれはどうなんだろう?」と思っていました。そういうことじゃないでしょ。図書館の運営、指定管理という制度ですけれども、他の施設と一緒に民間にお任せしてノウハウを、と言っているけれども、コントロールが効かなくなるので営業ベースにならないものはやらなくなる。それでは行政が施設を持っている意味がない。

損得抜きで県民の皆さんに有意義なものを探すんだと。よく空港が赤字だとか施設が赤字だとか、すぐマスコミ

が言うけれども、当たり前じゃないですか。赤字だから行政がやっているんだから（笑）。税金で支えてみんな使えるように、あるいは無料で使えるようにするのが税金の仕組みなのに。マスコミはすぐ赤字だ、赤字だと言う。赤字じゃなかったら民間でやっていまずと思うんだけど。

図書館なんかもそうです。お金を取らない。どういう本を並べるのかというの、やはり行政が考えて職員が考えて、こういう本があるといんじゃないかとコーナーをつくって、今、こういう話題があるのでこういう勉強しませんか、読んでみませんかと仕掛けていくのは行政の仕事だと思のです。そこをちゃんと提供できる人間を育てるのも我々の仕事なのです。県職員かどうかは別にして。だから市町村の図書館は市町村職員でやっているわけですから、その育成は県立図書館でやっている。司書を集めて研修をしています。人づくりの最前線にいる人たちとさらにバックアップして研修して育てて高めていく。

だからうちの東西の社会教育研修センターだって、一般の人からリーダーをつくるのもあるし、公務員からの職

員をスキルアップさせるのもあるし。

### 社会教育の効用

編集部…一般に社会教育というのは、その価値を数字で表わしにくいということがありますけれども、行政畑を歩かれた野津さんには通常予算要求の場合、「これだけの価値がある」ということで予算を取るということをされてきたと推測しています。

社会教育というものが非常に役に立つと。恐らく1年間でそれを体得されて、コミュニケーションが大事ということをすごく科学的に論理的に説明されていますが、「力技」で予算要求をするときに、社会教育の効用というものをどのように説得されたのか、というのが1点目です。

2点目は2010年（平成22年）後に社会教育研修センターになったり、社会教育ということに大きな揺り戻しがあったと思われるんですが、それによってこの10年に何が変わったか。社会教育の中にどういう意義があったのかということの簡単な総括をしていたきたいです。

野津…僕言う「力技」というのは、予算をやっている財政課とかが大體、

元部下なんです（笑）。知事にはちゃんと言いますけどね。

笑顔が増える、県民の方が明るく楽しく元気よく暮らせるようになる、そう思うだろう？ と。何をやるかはもちろんきちんと説明します。こうやってこういう工夫をしたら、と。あとは俺を信用しろと（笑）。これが力技。

効果として、人が元気になるということが目的です。地域がそれによって元気になる。人が町に出る。町に出ないと人と話せないの、いかに町に出るようにするかを仕掛ける。出てコミュニケーションを取ると、もう少し自分たちの身の周りを良くすることを考えようと仕掛ける人間がいるので、役場とか公民館とかみんな考えてみるかと。考えるだけじゃなくてやってみるかという話になります。それが地域を支えて守るということなんです。そういうことを今うちの県で、行政としてもやっているのが、小さな拠点づくり。「島根創生計画」の33ページに。編集部…それでも効果があるという実感をお持ちになっていらっしやいますよね。

野津…そうそう。現場を見ているので。それこそ2泊3日の研修をずっと後ろ

人口減少に打ち勝ち、笑顔で暮らせる島根をつくる

# 島根創生計画

SHIMANE  
REGENERATION  
PLAN

2020-2024年度  
令和2年3月 島根県



島根創生計画の表紙

で見ている。そうすると一般の方対象の「親学」のファシリテーターを養成する研修だったのですけれども、研修中に受講者の心がふつと高まる瞬間って見えるんですよ。2泊3日の研修の中盤あたりで、ぐつと変わるんです。人のそういったところは見ているだけで分かるのです。表情に出ますからね。表情とかグループディスカッションとかに出るので、それを見ていれば自信を持って言えます。

そこにお金を掛けないと町が人がもたないぞと。自分のところの身の周りのいろいろな問題、今で言うくと、買い物ができない、スーパーがなくなつて。じゃあどうするって。お年寄りが増え

るのに。だんだん車の運転ができないようになるのに。そこら辺をどうするか。

そうならないように、少なくともこの買い物だけはこの商店で、少々高くてもやって維持しようとか、3つ4つの集落、もうちよつと大きな公民館単位で集まって、あなたのところはこれを残そう、この食料品の商店を残そう、あなたのところのガソリンスタンドを残そう、とか。そういったこともみんな考えていく。それを誰が考えるか。自分らで考えないと駄目でしょと。それを考える人をどうやって育てるのか。こういった学びをする。一般の人が学ぶトレーニング、考える習慣ができる。自分の言葉で物事を表現することができるという力を、年を取ってもある程度できるようにする。

論理的な合理的な判断ができるように維持していくということをやっているかないと、うちの地方は松江、出雲以外はなくなつてしまいます。松江・出雲も周辺部はなくなりますし。

**編集部**・平成の大合併、あれはどういうふうにお感じになりますか。

**野津**・市町村の数が59から19になりましたからね。それでも厳しい状況が続

いていて、みんな苦勞しています。

## この10年での変化

**野津**・この10年間、先程の「小さな拠点づくり」というのに取り組んでいまして、そこに社会教育の言葉があったからこそ、リーダー養成とか、リーダーが自分の役割がある程度分かる。自分たちが社会教育の教育者だという位置付けが言葉で分かるという効果は大きかったと思います。

公民館の館長さんとかあるいは公民館主事の方とか。役場の若手とか、それ以外にも地域のリーダーになっている人って位置付けが明確になる。ポジショニングを端的に示す言葉が必要ですよ。それが自分の意識を高めた、確立させたり、その名前に人が付いてくる。やっぱりリーダーには単にリーダーというだけではなくて、社会教育のリーダーとか社会教育者、自分らがやっているのは社会教育だという定義があることが助けになっていると思います。

これは生涯学習課のままだと、主役がどうしても学習のほうに。やっぱり我々はまずは動くほうの人を奮い立たせる必要があるのです。



**編集部**・島根県のほうからは様々な機関に人を送ったりされていきますけれども、今後もそういう予定ですか。

**野津**・その予定です。もつと勉強しなきゃ。あの人たちだつて学びたいんだから。

うちもそんなにお金があるわけじゃないし、もう1つは学校で教員が欠員になっているので、何人も何人も優秀な先生を社会教育主事に置いておくわけにはいかないというプレッシャーがあります。教員のなり手がいなくて。

なので、社会教育主事に限らず指導主事も含めて、そこら辺をもう少し現場に返さなきゃいけないという喫緊の課題が別にあります。だからそれが教員ではなくて事務がやればいいではないかという。職種のな話をする。事務屋だと市町村が自分で雇ってやることになるので、教員だと制度的な問題で、こつちから派遣しますけれども。

教員を市町村に派遣するということは、数は減っていくかもしれませんがあれどもなくなることはないと思います。やはり、うちの社会教育って学校と密接なんです。学校抜きにして地域が成り立たないし、子どもを抜きにして地域社会はできない。お年寄りも子ども

の顔を見たいです。そうするとやはり教員の社会教育主事じゃないと乗り越えられない壁があるんですね。社会教育主事の経験がある教員が学校にいるというだけでは、業務量的にも難しいし、事務局にいるといい人なのに校長になつたら急に頭固くなる人もいます。不思議でしょうがない(笑)。

**編集部**・社会教育主事を経験された校長先生は、いろんな問題にどつしりと構えて、ネットワークも持っているのですごく信頼できるんだということは国立教育政策研究所社会教育実践研究センターのヒアリング調査でも……。

**野津**・経験がありますからね。教壇に立っている以外の経験がありますので。今そつちのほうが、問題が大きいし、そういう意味ではいろんなことの対処方法が分かっている。分かっているから最初から押さえにかかるといことができる。なので、施設の自然の家とか青少年の家とか、施設の社会教育主事もあるし派遣の社会教育主事もあるし事務方もありますけれども、両方やってほしいなと思います。

**編集部**・事務方の社会教育主事？  
**野津**・事務局、事務局。いろんな施設だけでは終わってほしくないし、派遣

以外のこともいろいろ見てほしいところもあるし、それは両方やってほしいところでもあります。

そういった経験者をたくさん生み出すことが、学校運営にとってメリットだということで、その養成を増やそうと思つて予算もつけたけれども、僕が課長のときから今年まで1000人ぐらい資格を取りました。10年ぐらいで、それだけ学校現場にいるということです。

社会教育の現場を経験してなくても学んだことがある、ネットワークもある程度持っているということが学校運営にとつて役に立つのではないかと思つて、その時、当時課長のときに「校内社会教育主事」という制度ができないかと考えていました。社会教育主事が発令事項で事務局にいないと発令できないという制度なので、何とか他にも、公民館社会教育主事とか。文科省に「校内社会教育主事とか公民館社会教育主事って名乗っていい？」って聞いたら、「別にいいよ」つて言うから。その後、社会教育士というオフィシャルな資格ができたのでこれでいいと思うのです。そのほうが普遍的な資格、発令じゃなくて取得した「称号」なの

で、ありがたみもあるし。任命権者に左右されないし、いいと思うのです。だから社会教育士はどんどん取ってほしいと思っています。

それがさっき言ったように、学校側、まず教員にも取ってほしいと思っ  
ています。学校の中のほうから地域へのアプローチが上手にできる。一方で、今の行政の人、公民館の人、そうでない一般の地域のリーダーにも取ってほしいし、それが地域を支えるし、地域から学校へのアプローチもできる。

地域からだどと学校にこだわらないんですね。企業とか農家とかいろいろあるので。そういう何か技を1つ持っている。要は話し方ですよ。話し方が上手ですよ。すぐだまされま  
すからね(笑)。口車に乗せられて。あ、そうなんだーって僕すぐだまされて(笑)。

**編集部**..そういう技は予算要求のときに役立ちますか。

**野津**..はい。

**編集部**..力業とは、と質問があつたときに「自分の部下だからできるんですよ」とおっしゃったんですけれども、この部下というのは社会教育課長のときの部下ですか、それとも……。

**野津**..それより前と後。財政とか人事。

行政。

**編集部**..そのところは、社会教育の最弱点です。よく社会教育課長になっていただいたというか。

**野津**..どういうことでしょうね(笑)。

**編集部**..それくらい重視しているという  
ことですね、島根県。

**野津**..なかなか同じ部が二度と雇って  
くれなかったの、若い頃。みんな外に出されて。

**編集部**..1年だけなのに、社会教育に  
そんなに愛を持ってもらえて。

**野津**..濃密な1年でしたから。1日が  
21時間ぐらありましたから(笑)。

**編集部**..県の講堂でプレゼンをする  
という話(『月刊公民館』2011年(平成23年)11月号6ページ参照)を聞いたときにびっくりしましたね。何をやるうとして  
いるのかなと。

**野津**..知事が聞いていましたからね。  
あれがいいのは、何で講堂でやったかという  
と、知事呼んで全部プレゼンを聞いてもら  
っていたのです。審査員ではないけれども。知  
事が興味があるのはプレゼンのよしあしで  
はなく、何を地域の人が考えていて、何が  
問題で、この人たちは何ならできると思っ  
ているのか。何をしようとい

うのは課題解決なので、問題が分かれば何をしようというのは分かる。どうやってするのか。それをどうやったらできるとこの人たちは思っているのかということに興味があるんですね。知事から見たら。

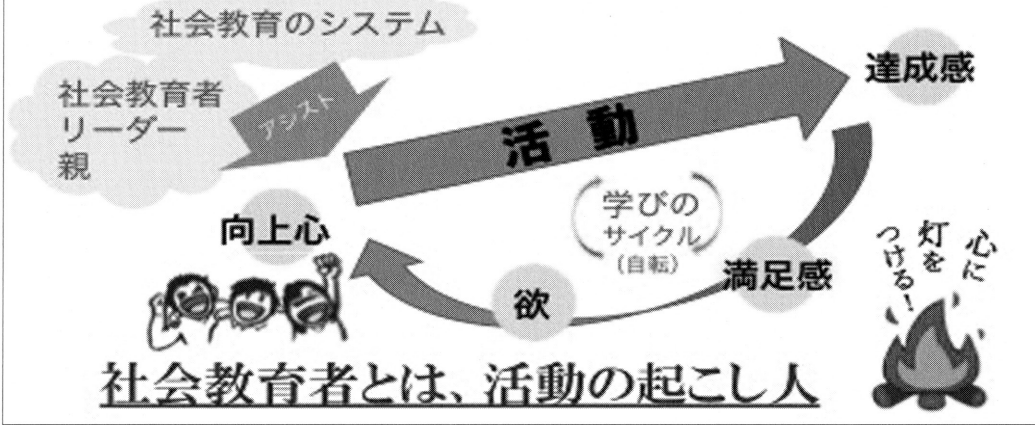
「活動を起こせ!」

**編集部**..ぜひ最後に教育長にお伺いしたいのが、いろいろ拝見しました資料の中に、社会教育課長でいらつした  
た当時、社会教育とは地域の住民の方を元気にする活動だというふうにおつ  
しゃつたと思います。それを踏まえる  
ならば、社会教育主事は何だというふ  
うに教育長は表現されますでしょうか。  
社会教育主事にとって、教育長が考  
えていらつしゃる一番大切な要素、能力、  
資質を1つ挙げるとすればどのような  
ものがあるでしょうか。

**野津**..現実の問題を解決することです。  
御託は要らないから世の中を動かす。  
「活動を起こせ」という、僕が当時使っ  
ているフレーズがあつて、県民の方の  
日常生活「活」に普段ない「動」きを起  
こせと。起こせ、ですから、それが役  
割。

長いことやっていると活動自体が、

県民の日常生「活」に普段ない「動」きを起こせ！



自分が動くことが目的化してしまうので、数値じゃなくて成果。相手がどう変わったか。県民の方、対象の方の行

野津教育長の提案の図

動変化を必ず起こせと。社会教育主事に僕が期待する役割で、僕は自分の部下にはそう言います。「起こしてこい」と。やり方は君たちのほうがプロかもしれない。だけど見失っちゃいけないのは県民の方の生活が変わること。ちょっとでもいいから。変わりはじめたら自転するんです。

活動を起こせという僕のフレーズって、社会教育課長の内示をもらって10日ぐらいして課長になって、4月1日の着任時に偉そうな顔して座っているわけですよ(笑)。何て言おうかなと思つて。10日間悩んで。結局しゃべりながら考えたことなんだけれども、今考えても使えるなど思つて。僕は気に入つてますし真髓をついているんだろうと。当時のスタッフが気に入つてくれて使つてくれましたから。そういうフレーズって必要なんだろうなどと思いません。

編集部・コピーライターというか、ちやんと言葉として出せる、リーダーが出してくれるというのほすごくいいことだと思えます。やはり分からないとしようがないです。伝わらない。

野津…いろんな人に同じ意味が伝わらないと。1つのことをみんなが同じよ

新刊 社会教育の再設計：シーズン3 新書判

～未来への羅針盤をつくる知の冒険～

社会教育を拡張する  
草の根の取り組み

西上ありさ・横山太郎・上田假奈代  
・栗栖真理・竹原和泉・小池良実

発行 日本青年館 2022年11月 新書判 80頁  
編著 「学びのクリエイターになる！」実行委員会  
定価660円(本体600円+税) 送料140円 ISBN978-4-7937-0142-9

うに捉えられるというのは言葉の一番大事なことだと思えます。だから難しい言葉は使わないんです。コミュニケーション・スクールなんか使わない(笑)。

編集部…ほんとにこんなに楽しいインタビュー、ありがとうございます。

(終了)